

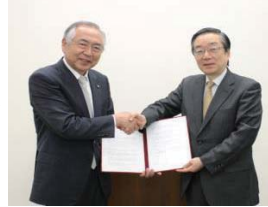
環境未来都市としての新地町の取組み

「やっぱり新地がいいね」～環境と暮らしの未来（希望）が見えるまち

平成 23 年 12 月、新地町は国の環境未来都市に選定されました。環境未来都市とは、省エネルギー化や高齢化などの課題に対し、環境、社会、経済の三つの価値を創造することで「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力のあるまち」の実現を目指す、先導的プロジェクトを後押しするもので、全国で 11 の都市・地域が選定されています。

国立環境研究所との協定締結

新地町と国立環境研究所は、環境未来都市の選定を受けたことをきっかけに交流が始まり、「互いの情報、資源の活用」「環境分野における人材育成」「研究成果の地域還元、普及啓発」を進めるために、平成 25 年 3 月に基本協定を締結しました。これまでに以下のような取組みを進めてきました。



環境まちづくり講座・フォーラム

環境・エネルギーの学びの場を作ります

2050 年の新地町を考える

尚英中学校ワークショップ
「新地町総合計画」に反映しました

復興計画シミュレーション

「新地町人口ビジョン」に反映しました

新地くらしアシストシステム

新地町では情報通信技術を活用し、環境に配慮した復興まちづくりを支援する「新地くらしアシストシステム」を実施しています。家庭のエネルギー使用量を分かりやすくグラフで表示し省エネを進めること、イベントや生活に役立つ地域の情報を表示し地域のつながりを生み出すことの二つを目的とした取組みです。平成 26 年 4 月から約 80 世帯に、専用の端末（タブレット）を配布し、モニターとして協力いただいています。この春からシステムが大きく変わり、誰でもパソコンやスマートフォンから利用できるようになる予定です。



「新地駅周辺まちづくりニュース」は、新地駅周辺の新たな拠点整備事業の過程において、事業内容や整備される施設の紹介、現在の進捗状況などを、事業完了にむけて定期的に発行し、お知らせしていく予定です。

編集は、国立環境研究所の協力のもと進めております。

発行予定

創刊号 [H29.12] 駅周辺まちづくり・エネルギー事業概要

第2号 [H30.3] スマートコミュニティ事業とは？

第3号 [H30.8] 駅周辺にぎわいづくりプロジェクト

第4号 [H30.12] 新しい拠点完成！いよいよまちびらき！

※発行回数や時期は変更になる可能性があります

新地駅周辺 まちづくり ニュース

新地町の新しい拠点づくりの最新情報をお伝えします！

第2号

発行：新地町
2018. 3. 20



2018年2月14日 撮影：国立環境研究所

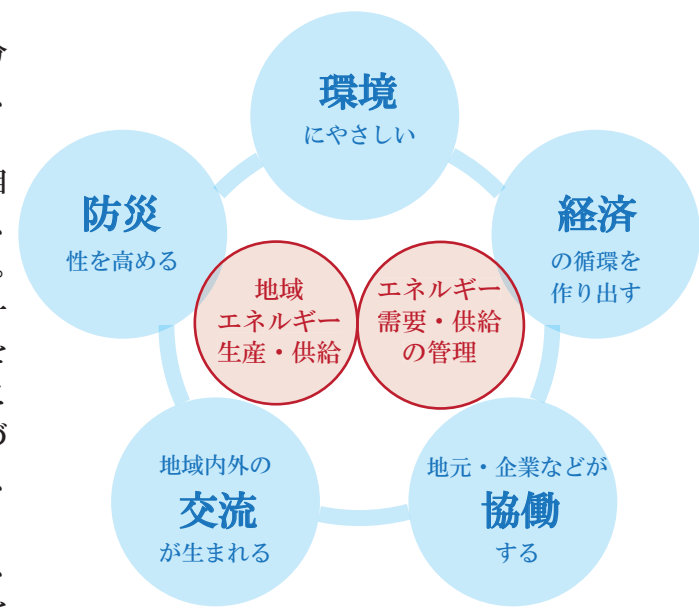
特集：スマートコミュニティ事業とは？ 地産地消型エネルギー利用を核とした復興まちづくり

新しい拠点づくりが進められている新地駅周辺では、地産地消の地域エネルギー利用を核としたスマートコミュニティ事業を推進しています。スマートコミュニティとは、地域単位で賢く（スマートに）エネルギーを使うことで省エネルギーで環境に配慮した地域づくりを実現することを意味します。地域の中で必要な分だけエネルギーを創り出し、需要量と供給量を管理し、最適な活用を行います。

新地駅周辺では、エネルギーセンターを設置し、相馬港で受け入れる天然ガスを利用して、エネルギー（熱、電気）を生産し、新たに整備される施設へ供給します。あわせて、各施設のエネルギーの需要量、供給量を一元的に管理することで、エネルギーの効率的な利用を行います。災害時にも熱や電気を安定して供給することが可能であり、これら環境配慮型の取組みをまちづくりに活かすことで、新規の民間事業者を呼び込み、雇用創出や交流人口の増加を目指します。

全国的にも多様なエネルギー導入が図られるなか、新地町は他地域に先駆けた環境配慮型の地域づくりを進めています。

新地駅周辺スマートコミュニティ事業の目指す復興まちづくりの将来像

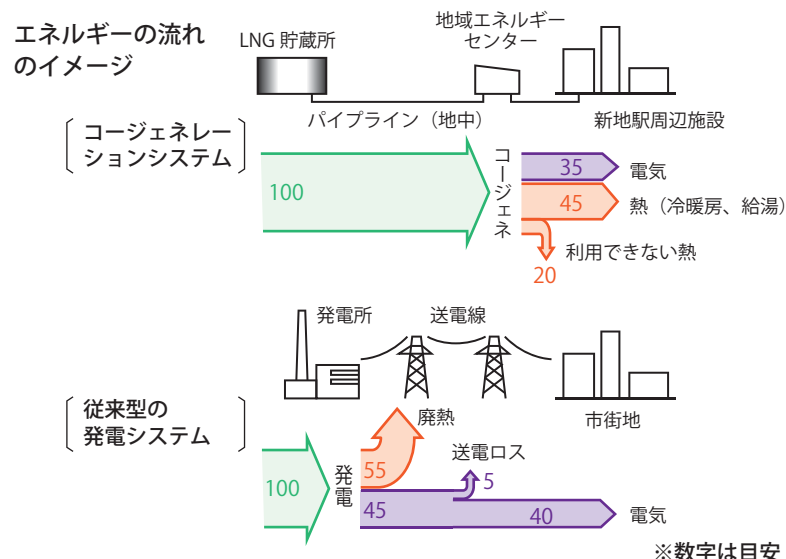


新地駅周辺スマートコミュニティ事業の概要

1 効率的なエネルギー生産、エネルギー管理による環境にやさしいまちづくり

コージェネレーションシステム

コージェネレーションシステムは、熱源より電力と熱を生産し供給するシステムの総称です。従来の発電システムでは廃熱となる熱を冷暖房や給湯の熱源として利用することで、環境性の高いエネルギー効率を実現します。



エネルギーマネジメントシステム

施設への熱電供給を管理する中央監視装置を設け、地域のエネルギー情報を集約します。発電量と使用量を計測し、見える化を行い、エネルギーバランスを制御します。

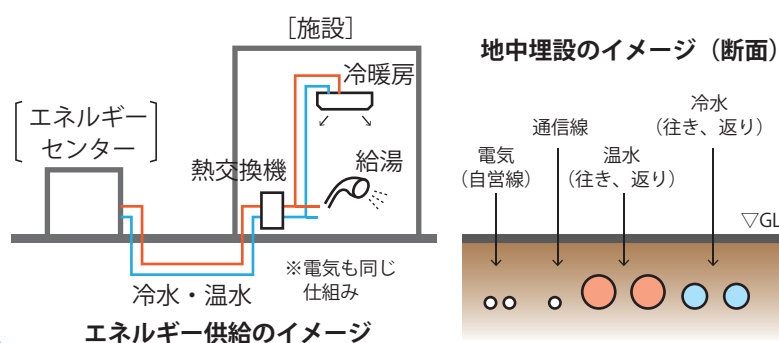


2 地域内で生産したエネルギーを地域内へ供給し防災性の高いまちづくり

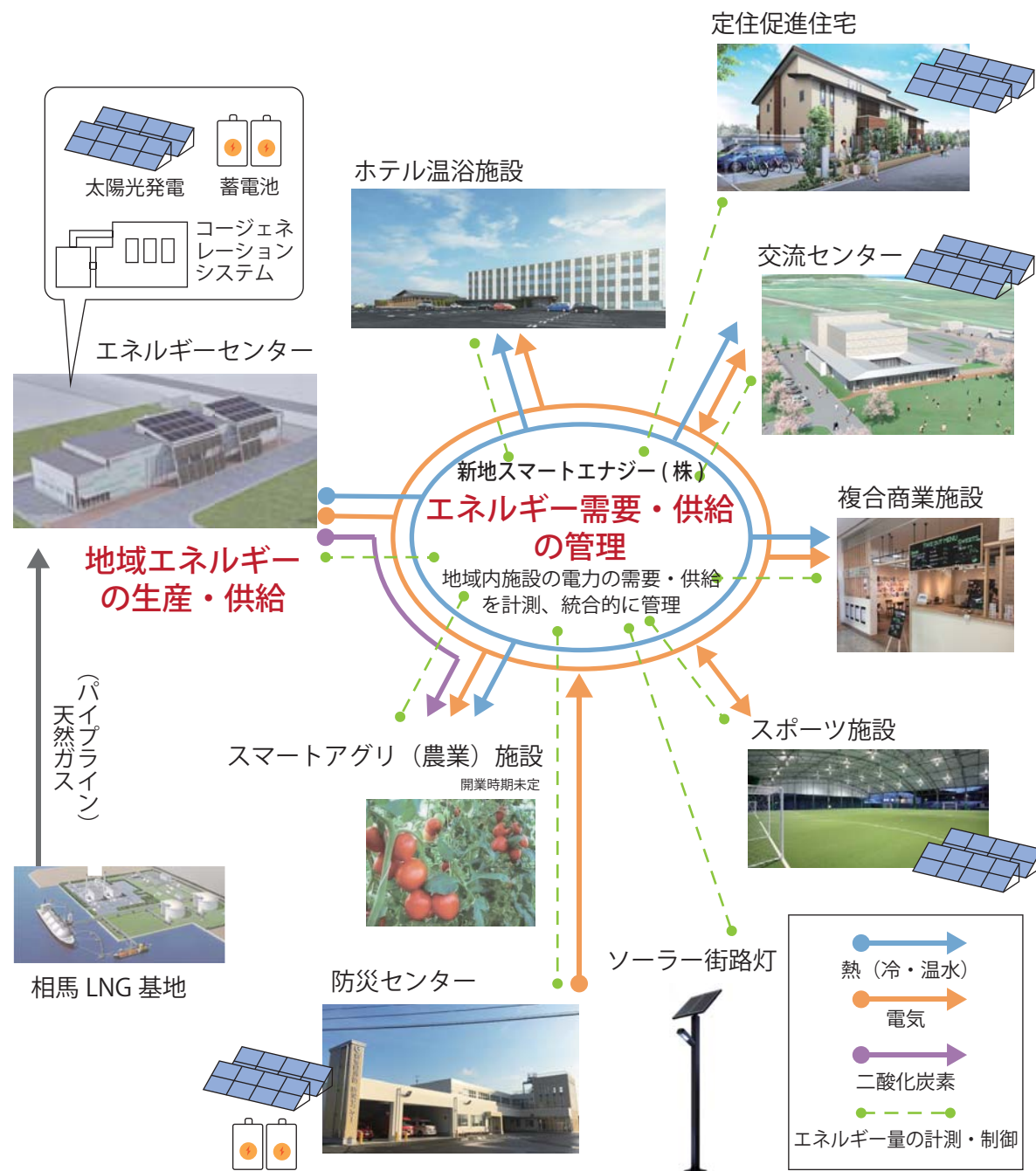
地域への熱・電力供給

エネルギーセンターで生産された熱、電気は、地下に埋設された熱導管（冷水、温水）、自営線（電気）を通して地域内の各施設へ供給します。

被災時など系統電力停電時には、コージェネレーションシステムのほか太陽光発電・蓄電池を活用して自立型の電源として地域へ貢献します。



スマートコミュニティ事業が目指すまちづくりのイメージ ～地産地消のエネルギーで環境共生型の復興まちづくりを実現～



■エネルギーシステム整備工事スケジュール
工事受注者：日比谷総合設備(株)東北支店

	H29.2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
仮設・地盤改良	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
建屋工事			●	●	●	●	●	●	●	●
機器製作				●	●	●	●	●	●	●
熱導管・自営線工事				●	●	●	●	●	●	●
HEMS導入、CEMS、BEMS、サイネージ工事					●	●	●	●	●	●
外構工事							●	●	●	●
設備工事								●	●	●
試運転・調整									●	●
EMS総合試運転									●	●

スマートコミュニティ事業は、福島県浜通り地域における産業基盤の再構築や新たなまちづくりを進めるために、政府ならびに福島県が推進する「福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想」において、エネルギー関連産業プロジェクトに位置付けられています。また、事業の実施には、経済産業省の「スマートコミュニティ導入促進事業」を活用しています。

安全祈願祭 (H30.2.9)



3 地域エネルギー事業により収益を確保する経済の循環を作り出すまちづくり

エネルギー事業により、熱・電気を地区内の施設に供給(販売)することで、収益を上げ、地域内で経済の好循環を作り出します。

また、エネルギー事業を地域ブランドとして活かして民間企業を誘致することで雇用の促進を図ります。

【新地スマートエナジー株式会社】

平成30年2月15日に、新地町・民間企業の12の企業・団体が出資して、エネルギー事業の運営を目的とした新会社を立ち上げました。



設立記者発表の様子

4 事業を地域内外にPRする地域内外の交流が生まれるまちづくり

地域エネルギーの生産・供給の流れをわかりやすく紹介し、小中学生の学習や町内外の見学者に対応可能とします。事業を活かした環境学習の機会づくりなども展開していく予定です。



施設の見学



模型等の展示

5 開かれた参加の機会をつくり学校・企業などと協働するまちづくり

町民の方々、関連する民間事業者等の参加を募り、地域に密着した新地町らしい事業として実施していきます。

高校生ワークショップ

新地高校美術部では、エネルギー会社のロゴ(原案)づくりを行っています。事業開始後は、PRなどに活用していく予定です。

